



国際評価基準審議会評議員
日本公認会計士協会相談役

せきね あいこ
関根 愛子

国際評価基準審議会 (IVSC) 年次総会報告

I 概要

2023年10月11日(水)に国際評価基準審議会(International Valuation Standards Council: IVSC)年次総会が開催され、それに先立ち、10月9日(月)から、各基準理事会や評議員会等の関連会議が開催されたため、年次総会及び関連会議について報告する。今回はフランスの二つの主要な会計専門機関であるCompagnie Nationale des Commissaires aux Comptes (CNCC)及びConseil National de L'ordre des Experts-Comptables (CNOEC)の主権により、フランス・パリにて150名程が集まり対面開催され、日本からは事業評価基準理事会(Business Valuation Standards Board: BV Board)メンバーの岩田宜子会員と評議員会メンバーの筆者、関根が参加した。

なお、本稿に加え、岩田宜子会員による事業評価基準理事会の活動紹介や、北野利幸ボードメンバーによる金融商品理事会(Financial Instruments Board: FI Board)の活動紹介も掲載しているので、併せてお読みいただき

たい。

II 年次総会

1. 基調演説

評議員会(Board of Trustees)議長であるAlistair Darling卿(元英国財務大臣)のビデオによる基調演説が冒頭に流され、新型コロナウイルス感染症のパンデミックを通して、国際基準に準拠した高品質で信頼性の高い評価に対する需要はかつてないほど高まっており、このような状況の中で、IVSCは引き続き重要な役割を果たし、世界的に認められた評価基準とプロフェッショナリズムに対して取り組んでいくと述べられた。また、2022年シンガポールにアジア初の地域事務所を開設し、評価基準に関する世界的な対話を育み、真の国際機関となるという取組の証であることにも言及された。

2. 2022年の議事録承認

Alistair Darling議長がビデオでの参加となったため、評議員会副議長のLim Hwee Hua氏が進行を行い、2022年の年次総会の議事録が承認された。

3. 基準審査理事会からの報告

基準審査理事会(Standards Re-

view Board:SR Board)は、各ボードに戦略的なガイダンスを提供し、調和を図り、評価専門家の声を発信する役割を担っている。

SR Board議長のSusan DuRoss氏(米国)から、まずこの1年間の具体的な成果として、各基準理事会からの一般基準に対するフィードバックや各資産基準に対する修正案の評価を含む、国際評価基準(International Valuation Standards:IVS)の公開草案の完成が挙げられた。また、それと並行して、人的資源やブランド価値などの無形資産から、社会的価値の定義や見積り、ESGに関するサーベイの結果といった幅広いテーマのパースペクティブ・ペーパー¹を発行したことが紹介された。

2024年の主要な活動としてIVS改訂版の公表を挙げ、アジェンダ協議のトピックについては、ステークホルダーの潜在的な懸念と関心に配慮し、人工知能やESGといったトピックを取り上げることを検討していることが示された。

4. アドバイザリーフォーラムからの報告

アドバイザリーフォーラム(Advisory Forum)は、各国の評価専門職業組織(Valuation Professional Organization:VPO)共通の関心事について議論の仲介を行うとともに、各理事会に対して助言を行っている。

アドバイザリーフォーラム議長のJohn Martin氏(オーストラリア)からは、この1年はVPOの間でも特に関心が高く、緊急性の高いESGや市場価値にフォーカスしたウェビナーを開催した旨の報告がなされた。また、今後も世界中のVPOやIVSCと協力し、重要なトピックの提供に取り組み続けることなどが示された。

5. 財務報告

監査済みの財務諸表、次期監査人、

次期収入見込み及び予算案の説明があり、承認された。

なお、詳細については、IVSCのウェブサイトにおいてアニュアルレポート²が掲載されているので関心のある方は参照されたい。

6. 評議員の交代

6年の任期の満了によるAna Maria Elorrieta氏(アルゼンチン)、Jay E Fishman氏(米国)の2名の退任が報告され、Mary Barth氏(米国)の就任、Lim Hwee Hua氏(シンガポール)、筆者関根の2名の再任が承認された。

III 関連会議等

年次総会の開催に併せて、評議員会の他、SR Board、BV Board、FI Board、有形資産理事会の各理事会、メンバーシップ・基準承認委員会、ヨーロッパ委員会、アドバイザリーフォーラム・ワーキンググループの各会合が開催された他、一般の参加者のためにアドバイザリーフォーラムやパネルディスカッション、CNCC及びCNOECの共催による評価に関するカンファレンスが開催されるとともに一連の会議期間中のランチ及びガラ・ディナーにおいて、各専門家の交流の機会が設定された。また、この間にIVSCは、今回の主催者であるCNCC及びCNOECと覚書(MOU)を締結した。両者との覚書の締結は、フランスにおける協力関係とIVSの重要性を強調するとともに、世界的な評価基準の向上への取組を示している。

IV おわりに

日本公認会計士協会は、主に事業評価(企業価値評価)に関する情報収集及び意見発信等を目的として2016年に

IVSCに機関メンバー(Institutional Member)として加入した。また、日本不動産鑑定士協会連合会は、VPOメンバーとして加入している。IVSCが取り扱っている、又は取り扱う可能性のある評価対象資産は、事業、不動産、金融資産、機械装置、のれん、自己創設無形資産、アーリーステージの企業、棚卸資産、生物資産、採掘産業、アートなど多岐にわたり、現在のところ、評価全般に関する基準を扱う有力な国際組織は他に存在していない。

IVSCは、ESGや長期価値のように世界的に注目されているテーマについても継続して議論を進めている。2022年10月にIOSCOと協力文書を締結して以降、規制当局や投資家や他の基準設定主体等との連携により一層力を入れている。今後、IVSCが示す基準が将来的に有力となっていく可能性があり、国際的な動向を注視していく必要がある。なお、今回の年次総会は、2024年11月22日(金)に香港にて開催予定である。

IVSCからのe-Newsを受け取ることで、上述のようなオープンセミナーを含む、評価に関する専門情報を入手することができるので、関心のある読者の方は、登録を検討されたい。

最後に、2023年11月にAlistair Darling議長が逝去された。IVSCのこれまでの活動と発展に大いに貢献したAlistair Darling議長の功績に敬意を表し、心からご冥福をお祈りする。

<注>

1 パースペクティブ・ペーパーは、国際評価基準(IVS)に関連する、評価のトピックや新たな課題についての議論を開始し促進することや、基準設定者の視点からトピックに関する情報を提供することなどの目的でIVSCから随時発行される文書と位

置付けられている (IVSやその公開草案ではない)。

最近では、自動評価モデル、ESG、無

形資産、社会的価値に関するのパーспекティブ・ペーパーが発行されている。

2 <https://www.ivsc.org/pdfviewer/>

[ivsc-annual-report-2023/](#)